

# 銀杏企画三丁目の掲示板

[トップページへ戻る](#)

Name 国士無双	e-mail
Title	
Message	
ところ	

[1974] サッカーに罪はないのよ 2010年7月17日 21時27分

レオンさん e-mail

『反天皇制運動モンスター』の第6号(2010年7月6日発行)に、次の記事が載っていました。

サッカーに罪はないのよ

「勝ったねー」「はあ……」「すごい試合だったねー」「はいそうですね……」

あ～もう僕にワールドカップの話を振るな！

その日は職場でもテレビのニュースでもサッカーの話で持ちきりだった。日本が勝てばそうなることは予想していたが、やはり鬱陶しい。だから「日本負けちゃえばいいのに……」と密かに願っていたのだが。

しかし僕はサッカーが嫌いなのではない。嫌いではなく興味がないのだ。嫌いなのはワールドカップでありFIFAであり、それに乗じる国家権力なのだ。

今回の開催国である南アフリカは、FIFAや観戦旅行客の目に届かないところに野宿者、ストリートチルドレンの追い出しをしているという(どこの国もやることは同じだ)。デモや集会も制限されているらしい。

今まで南アフリカには好意を持っていた。それは十数年前にネルソン・マンデラ自伝を読み、アパルトヘイト撤廃の闘いに勝利した歴史に感銘したのだが。誰がなろうがやはり国家権力だ。権力をもてば抑圧する側になるのである。

そんなことを書いているうちに、とうとう来ましたよ「サムライジャパン」敗北の日が！  
これで四年間は静かだな。あ、オリンピックがあるか～  
【うさ】

URL <http://www.ten-no.net>

……コメント抜きで、紹介しました。

[1973] 「精神障害者」を差別している人も、本当は、「精神障害者」かも知れない  
2010年7月15日 20時3分

レオンさん e-mail

「精神障害者」を差別している人も、本当は、「精神障害者」であるかも知れません。

ただ、医者に診てもらっていないから、「精神障害者」とは診断されていないだけかも知れません。

「精神障害者」を差別している人も、未来の世界から見れば、「精神障害者」であるかも知れません。ただ、医学が「遅れている」ために、「精神障害者」とは診断されていないだけかも知れません。

「精神障害者」と診断されて、精神科にかかっている人だけが、「精神障害者」であるわけではないのです。

「精神障害者」を差別している人も、年をとれば、「精神障害者」になるかも知れません。認知症というのも、ある種の「精神障害」と考えることも出来るかも知れません。

[1972] [1969]の訂正 2010年7月15日 19時45分

レオンさん e-mail

[1969] (未来は、私たちのものだ)の本文中、下から3行目(空白行は、除いて計算)。

「素晴らしい未来」を実現させるためを「素晴らしい未来」を実現するため」に、訂正します。

[1971] 特集: 自立支援法一部「改正」法案② 2010年7月15日 18時55分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

### 本格的制度改革への期待

昨年8月に民主党を中心とする新政権が発足し、障がい者施策は、根本的に変わると期待されました。それは、障がい者制度改革推進会議(以下、「推進会議」)の設置に象徴されます。これまで障がい者施策は、厚生労働省の官僚と政府に都合のいい学者によって構成される中央障がい者施策推進協議会(中障協)によって作られ、当事者の意見は「聞き置く」程度で、施策に反映される保障は全くありませんでした。ところが推進会議は、委員の半数以上が障がい当事者及びその家族で、室長には車イス当事者である東俊裕弁護士が就任しました。審議の方法も、様々な障がいへの「合理的配慮」が実践され、障がい当事者が、地域で生きるために何が必要か?について協議を重ねてきたのです(まねき猫通信・93匹目参照)。

推進会議は、月に2~3回というハイペースで着実に成果を積み上げていました。6月には今後の基本方針となる第1次意見書、12月には第2次意見書を障がい者制度改革推進本部に提案し、来年度の予算措置にも反映できるよう準備が進められているのです。

### 厚生労働省の反撃 自民・公明の横槍

このような動きを無視して、4月27日自民党・公明党が議員立法で自立支援法一部「改正」法案を提出しました。昨年3月解散のため廃案となった「改正」政府案とほぼ同じ内容で、厚労省官僚が入念に準備した自立支援法体制の維持を目的としたものです。

民主党政権は、3年後の8月までに自立支援法廃止と決めたはずで、それまで予算措置でやればよく、「改正」を通すことはない私たちの多くは思っていました。ところが5月上旬、民主党は、「自民・公明との合意案の成立を目指す」とマスコミに発表。民主党の対案には「平成25年8月までに…障害者自立支援法の廃止を含めて…障害保健福祉施策を見直すまで」とあるものの、大部分は同じ内容でした。

5月27日、衆院厚生労働委員会では委員長が交代し、「厚生労働委員長案」として超党派でまとめた形で翌28日の委員会、6月1日の衆院本会議と矢継ぎ早に通してしまったのです。

(2010/07/15)

URLは<http://www.puku-2.com/maneko/doc/211.htm>です。

以上です。

さっさと自立支援法を廃止して頂きたいものです。

[1970] 特集:自立支援法一部「改正」法案① 2010年7月15日 18時51分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

招き猫通信というサイトに自立支援法に関する記事が出てました。  
以下、引用します。

### 支援法を守りたい厚生労働省官僚

障がい者自立支援法の一部「改正」法案が提案され、自立支援法延命が図られています。同法案は、障がい者自立支援法に代わる新たな総合福祉法を議論してきた「障がい者制度改革推進会議」や、その法整備のための「総合福祉部会」が積み上げてきた議論を無視し、大きな問題点を含むものです。

審議過程も、障がい者の意見を踏まえなかった自立支援法と同じで、当事者無視の民主主義に反する暴挙と言わざるを得ません。

「改正」法案は、国会期限切れで廃案となりましたが、再提案もありえます。審議過程をつぶさに観察し、抗議活動を続けてきた楠敏雄さんに、話をお聞きしました。(文責・編集部)

次に続きます。

[1969] 未来は、私たちのものだ 2010年7月14日 22時0分

レオンさん e-mail

「彼らは、自分たちとは違う存在だ」。「彼らは、自分たちよりも劣る存在だ」。「彼らは、人間以下の存在だ」。同じ人間であるはずの「精神障害者」のことを、そういうふうと考えている、悲しい「健常者」も、存在するかも知れません。

でも、医学は進歩します。時代は、変わります。

「昔は精神障害ではないと考えられていたものが、時代が変わって、精神障害の1つと考えられるようになる」こともあるのです。その逆に、「昔は精神障害の1つであると考えられていたものが、時代が変わって、精神障害ではないと考えられるようになる」こともあるのです。

「精神障害者」を差別している人も、本当は(未来の世界から見れば)自分も「精神障害者」であるかも知れないのです。ただ、医学が「遅れている」ために、「精神障害者」とは診断されていないだけかも知れないのです。

さらにいえば、医学が進歩すれば、昔は治らなかった「病気」が、簡単に治るようになることも、おいにありえるのです。

未来の世界では、「精神障害者であること」は、「目が悪いこと」と同じようなものにすぎなくなるかも知れません。そして、「目が悪い人が、メガネをかければ、日常生活をほとんど不自由なくすごせる」のと同じように、「精神障害者が、良い薬を飲めば、日常生活をほとんど不自由なくすごせる」ようになるかも知れません。そんな薬が開発される日も、遠くはないかも知れません。

ただし、「素晴らしい未来」を実現させるためには、人類は、人類を滅亡に導く核兵器や地球温暖化などの問題も、解決しなければなりません。

私たちと人類の未来のために、行動しようではありませんか。

[1968] 利用契約書を交わしました♡(〜●〜) 2010年7月14日 20時42分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

今日は、銀杏企画を利用するにあつたでの利用契約書を交わしました。以前、利用していたときに比べると契約書に署名したり、印鑑を押したり、かなり変わってきましたね♡(〜●〜)

良きメンバーさん、良き職員さんに恵まれ病状も徐々に安定してきました。

「災い転じて福となす」の格言通り、良き方向に向かえば良いと思ってます。  
ブルーアイズさん、夏場のお仕事乗り切ってください。  
私の方も体力が落ちないように気をつけ、夏バテしないように注意します♡(〜♪〜)

[1966] 人間は、みんな、多かれ少なかれ「狂っている」のではないか 2010年7月13日 20時48分

レオンさん e-mail

多くの人は、程度の差はあれ、異性愛者と同性愛者の両方の要素を持っているのだそうです。「100パーセントの異性愛者」も「100パーセントの同性愛者」も、実は少数であるのだそうです。アルフレッド・チャールズ・キンゼイ(アメリカの性科学者・動物学者)によれば、「ほとんどの人は、ある程度両性愛的傾向を持っている」のだそうです。

この考え(理論)を、「精神障害」の問題に応用して考えることは出来ないでしょうか。

人間は、みんな、多かれ少なかれ「狂っている」のではないか。「100パーセントの精神障害者」も「100パーセントの健常者」も、実は存在しないのではないか。「狂っている」部分は、人によって異なるかも知れない。状況によって異なるかも知れない。でも、「すべてが狂っている人」も「すべてがまともである人」も、実は存在しないのではないか。

そういうふうに考えることも、出来るのではないのでしょうか。

[1964] ヒトラーは、人間として「狂っていた」のではないか 2010年7月11日 19時25分

レオンさん e-mail

ヒトラーは、ユダヤ人や「精神障害者」を虐殺しました。「ヒトラーが、精神科にかかっていた」という話を、私は聞いたことがありません。ヒトラーは、「精神障害者」ではなかったかも知れませんが、でも、ヒトラーは、人間として「狂っていた」のではないのでしょうか。

ヒトラーを支持したドイツ人(ナチス・ドイツ時代のドイツ人多数派)も、人間として「狂っていた」のではないのでしょうか。

恋人や妻に暴力を振るうような男(DV男)も、人間として「狂っている」のではないのでしょうか。

精神にも「障害」があるし、人間としても「狂っている」。そういう人も、中にはいるかも知れませんが、でも、精神に「障害」があるかどうかということと、人間として「狂っている」かどうかということは、直接は関係ないのではないかと、本質的には別のことなのではないかと私は考えます。

精神には「障害」があるが、人間としては「まとも」である。私たちは、そういう人間でありたいですね。

[1963] もう10ヶ月過ぎました (#.^.#) 2010年7月11日 17時59分

ブルーアイズ さん e-mail

こんにちは。ブルーアイズです。今日2度目の登場です。  
暇をもてあましているのご勘弁ください。

私は去年の9月に働き始め、もう10ヶ月過ぎました。  
8月いっぱい働くと丸一年たったことになります。  
いや～、早いもんですね。

何しろ銀杏には17年もいたものですから、働き始めのころは緊張して疲労もひどく家に帰ってきてお風呂に入っていると、湯船につかってついウトウトしてしまうほどでした。

しかし、この数ヶ月は体のほうも働くのに慣れてきたせい、そんなこともなくなりだいぶ楽になってきました。

一日働いて「疲れたなあ」と思っても一晩寝ると回復するようになりました。

そして仕事のほうや会社のほうにもだいぶなれ、  
仕事のカも少しずつですがステップアップしてきたような気がします。  
何ゆえ私などを雇っていただいたのかいまだにわかりませんが  
こんな私でも雇っていただいた会社の上司には感謝しています。

明日からはまた仕事の一週間が始まります。  
昨日今日とゆっくり休んだので明日からまたがんばれそうです。  
それでは皆さん、明日からの一週間も乗り切ってください。

まえのページ

あたらしいページ

パスワード

削除番号

1974

記事削除

powered by **du one**  
NET